# 土橋町（つちはしちょう）

## 藤原京の西京極に位置

ほぼ中央を南北に国道二四号線橿原バイパスが通り、同じく東西にも中和幹線の走るのが土橋町です。二つの道路が交わる土橋南交差点は、市内で有数の交通要衝となっています。平成八年に「藤原京」の西京極とみられる西十坊大路跡が、この交差点南のバイパス沿い東側で発掘され土橋町の東半分が、古代に藤原京の一角を占めていたことも判明しました。

地名が南都・興福寺関係の領地「土橋荘」として、室町時代前期（一三〇〇年代）の各種古文書に登場しています。そして、同時代の後期（一四〇〇年代）になると土地の豪族・越智氏領地「土橋庄」が、支配の変遷を示すように春日神社関係文書に出てきます。

江戸時代に入って「土橋村」と呼ばれる農村となります。宝暦六（一七五六）年の村明細帳によりますと当時、村の戸数が二〇戸で人口が八二人。農業のかたわら男が縄・俵・農道具作り、女が木綿のかせ繰りなどにいそしんでいました（岡橋家文書）。

明治一五年ごろは、戸数五八戸のうち商業を兼ねる五戸を除いて残りが専業農家（町村誌集）で、同一七年の主要産物が米・裸麦・ぶどう・綿実・菜種（農産物取調表）です。昭和三一年に「橿原市土橋町」になりました。